

事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社日本動物高度医療センター（東証マザーズ：6039）

2021年12月6日



1. 会社概要
2. 事業概要
3. 業績・財務概要
4. 市場環境
5. 成長戦略
6. リスク情報



1. 会社概要



会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻巣 1-602 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 大阪病院 : 2023年3月に開院予定
設立年月日	2005年9月26日
資本金	385百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	225名（非常勤18名を含む）※グループ全体（2021年9月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック（高度医療機器を用いた動物の画像診断センター）

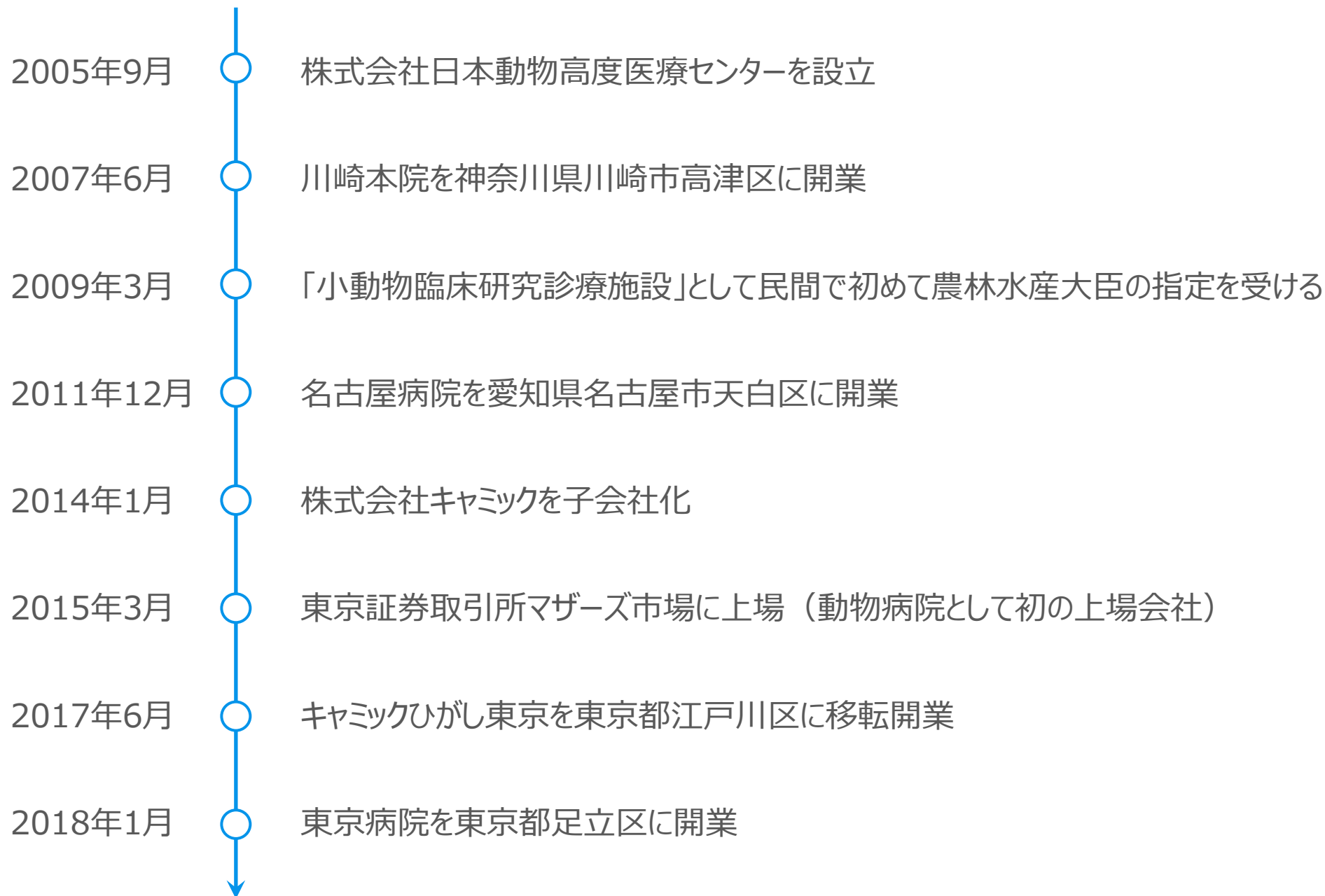
JARMeCは動物医療業界において、

「臨床や教育の現場で活躍する**人材教育**」の環境を整え、

「動物医療技術の向上を担う**臨床研究**」にチャレンジし、

「教育、研究の実践の場としての**高度医療**（二次診療）」を
地域の連携病院と協力して提供する

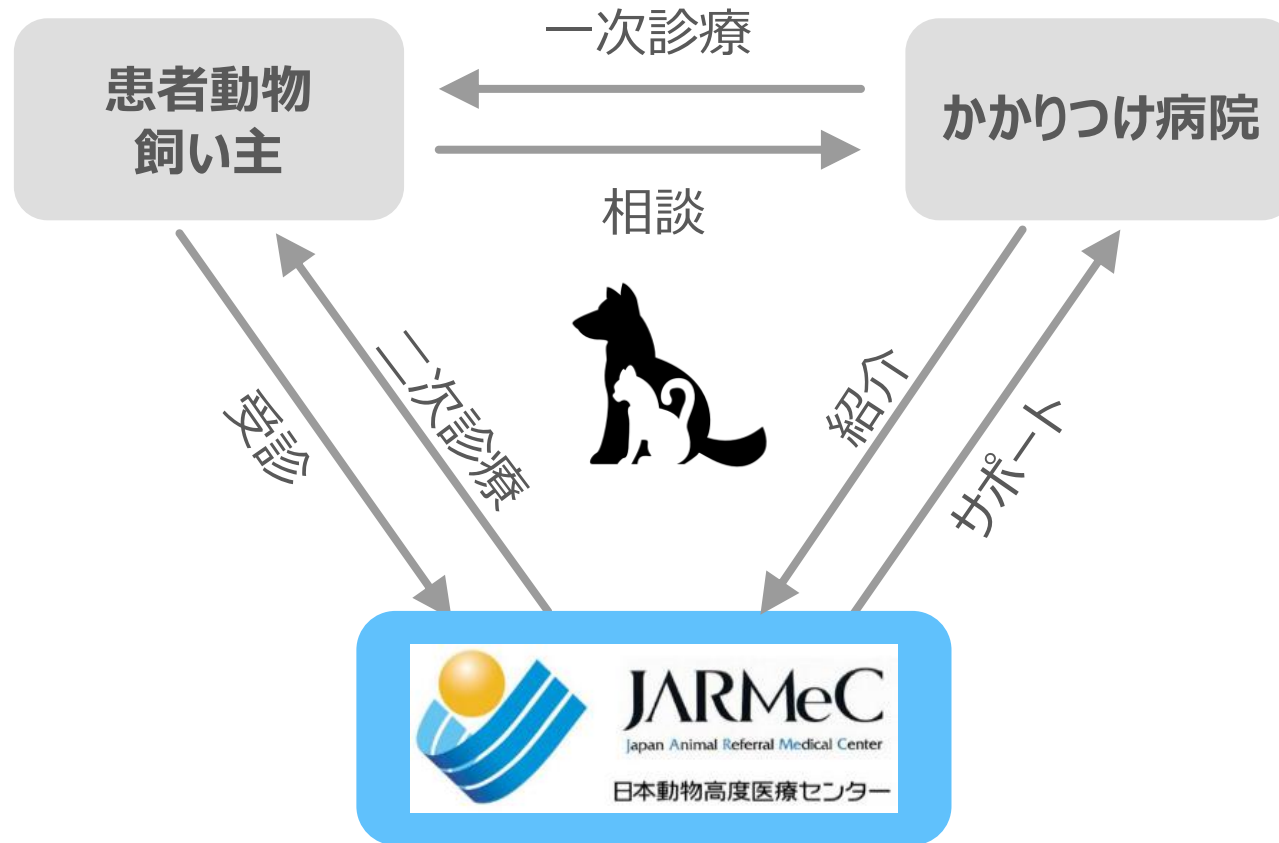
以上により広く社会に貢献することを理念としています。



2. 事業概要

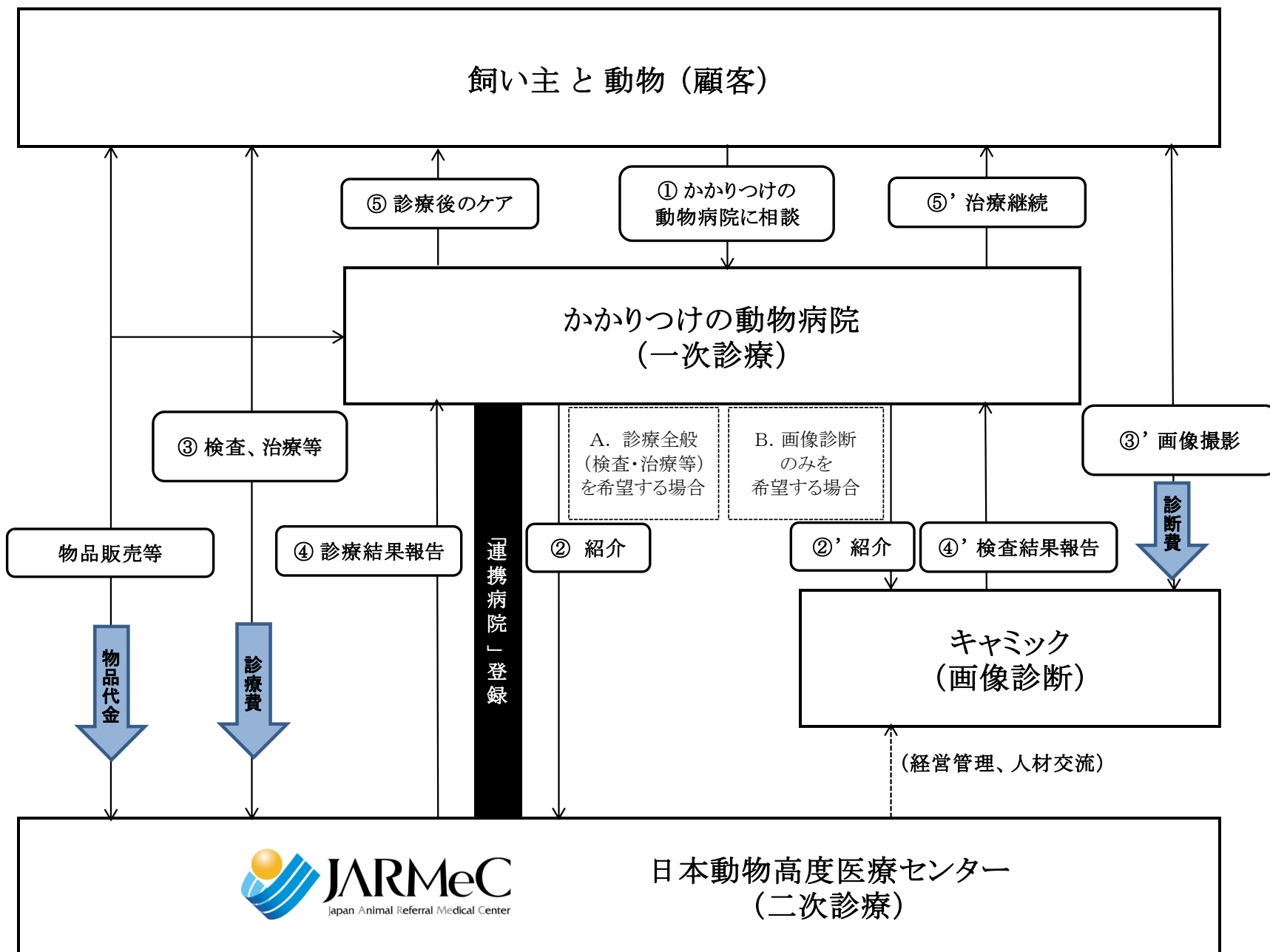


当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ コロナ禍において動物病院は「社会生活を維持する上で必要な施設」に分類

事業系統図





JARMeCグループの各拠点



JARMeC 東京 (東京都足立区)



JARMeC 名古屋 (名古屋市天白区)

CAMIC ひがし東京



CAMIC 城南



CAMIC 練馬



CAMIC 埼玉



専門診療科による高度医療

▶ 循環器・呼吸器科 Cardiology / Respiratory Medicine	
▶ 泌尿器生殖器・消化器科 Gastroenterology / Urology	
▶ 腫瘍科 Oncology	
▶ 脳神経・整形科 Neurology / Orthopedics	
▶ 眼科 Ophthalmology	
▶ 麻酔科 Anesthesiology	
▶ 放射線・画像診断科 Radiology & Imaging	

- ・ 特定の診療分野に特化し実際の診療を行う。
- ・ 動物の生命もしくは生活の質に大きくかかわる分野を広くカバーする診療科を揃える。
- ・ 併発する分野の疾患や鑑別が困難な症状の疾患に対して、複数の診療科で診療を実施。

例) 心疾患を抱えた高齢動物の腫瘍性疾患

腫瘍科+循環器/呼吸器科

発作症例 (てんかん発作と不整脈発作の鑑別)

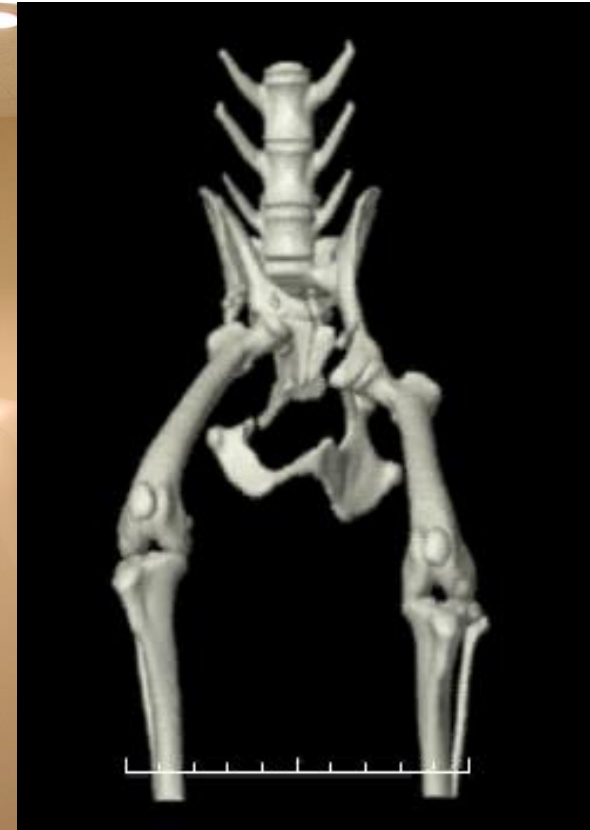
脳神経科+循環器科

- ・ 診断の肝となる画像診断や検査・手術に必須となる麻酔を担当し、安全かつ確実に診断できるように、上記診療科をサポートする。



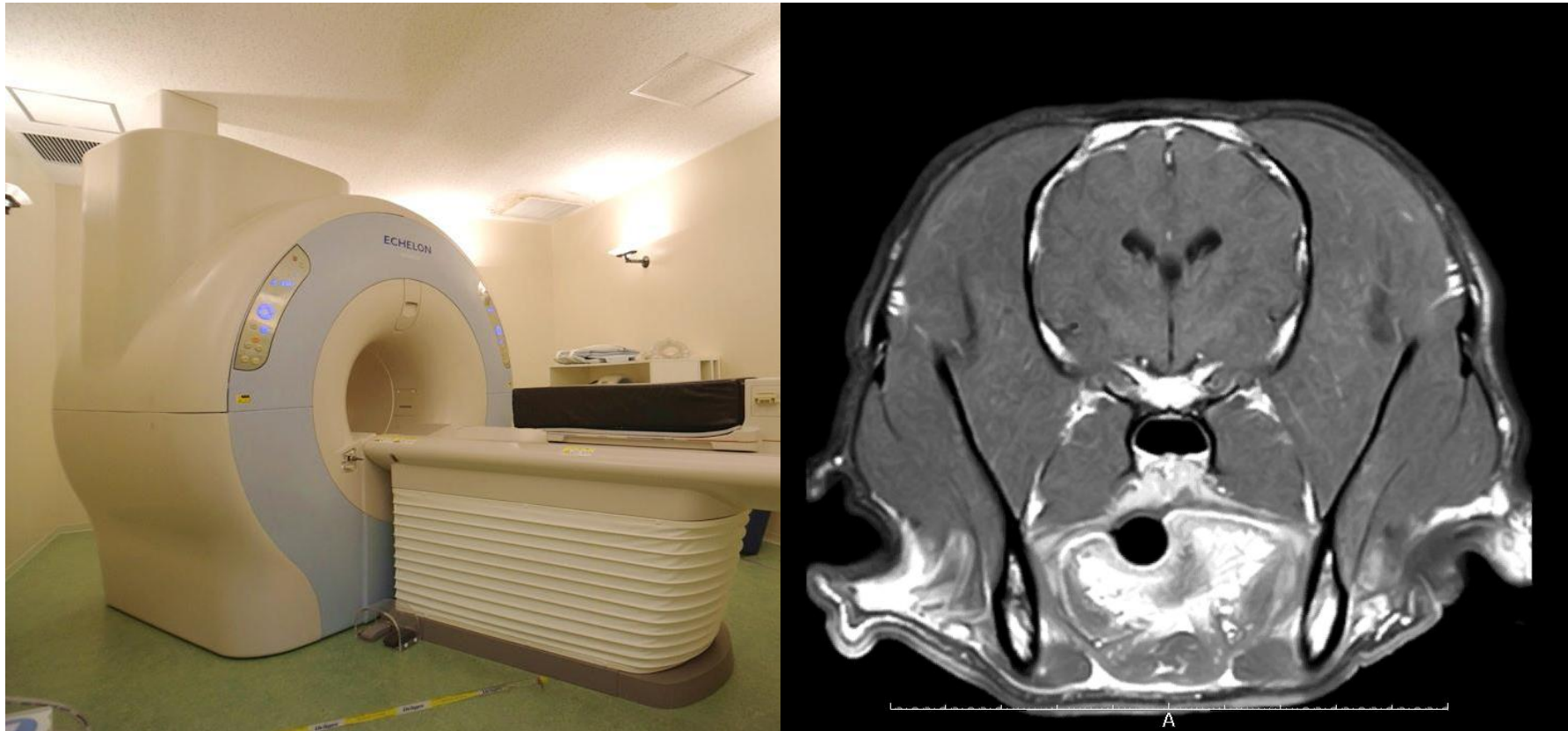
高度かつ総合的な獣医療を提供

主要な設備（1） CT撮影装置



断層画像や3D像を撮影できるCT装置を用いることで、一般の医療機器では見つけることが難しい病気の診断や治療計画が可能となり、高度な動物医療の実践が可能となる。

主要な設備（2） MRI撮像装置



超伝導型の高磁場装置を用いることにより、体の小さな犬猫の脳や脊髄の病変を高解像度で撮像することができ、精度の高い診断につなげることができる。

主要な設備（3） 各種手術室



第1

心臓血管外科
脳神経外科・整形外科

第2

腫瘍科

第3

眼科

第5・第6

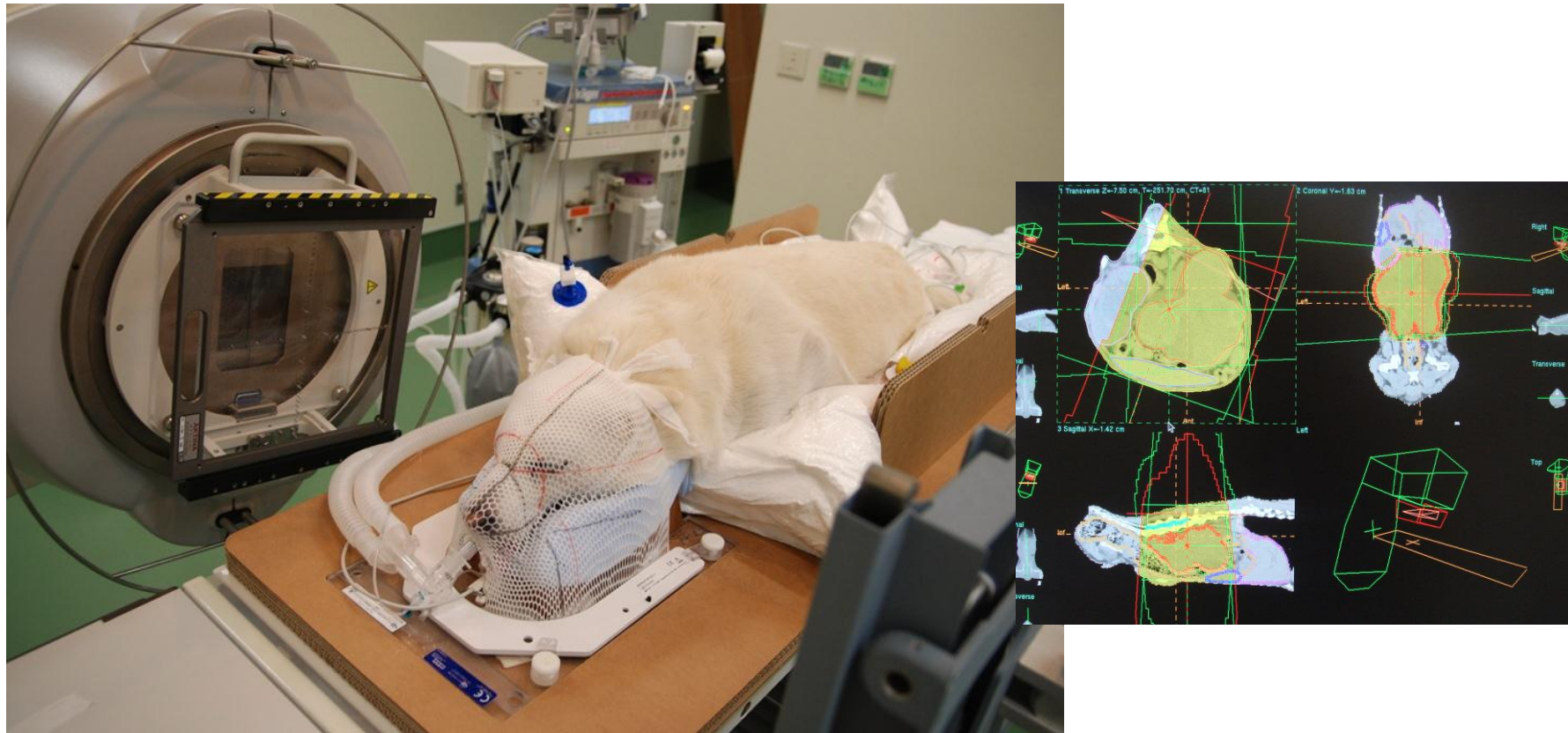
軟部外科一般

第7

歯科口腔外科・内視鏡

心臓手術や開胸手術、開頭手術や神経系手術、各種開腹手術や腫瘍摘出術、低侵襲手術（腹腔鏡手術・カテーテル治療）など、特殊な手術や難易度の高い手術を実施。

主要な設備（４） 放射線療法装置



外科手術で切除が困難で、抗がん剤が効きにくい“がん”に対しても、放射線を照射しがん細胞を殺滅することができる。

体の小さな犬猫のがんに対しても、精密に放射線を照射できる装置を備える。



当社の理念に賛同いただいた動物病院様には「**連携病院の証**」を進呈し、

①JARMeCグループのウェブサイト「[連携動物病院情報](#)」を掲載

②JARMeCから「[学術情報・セミナー情報等](#)」を配信

③ご紹介いただいた症例について、JARMeCにおける「[診療・手術](#)」の見学受入

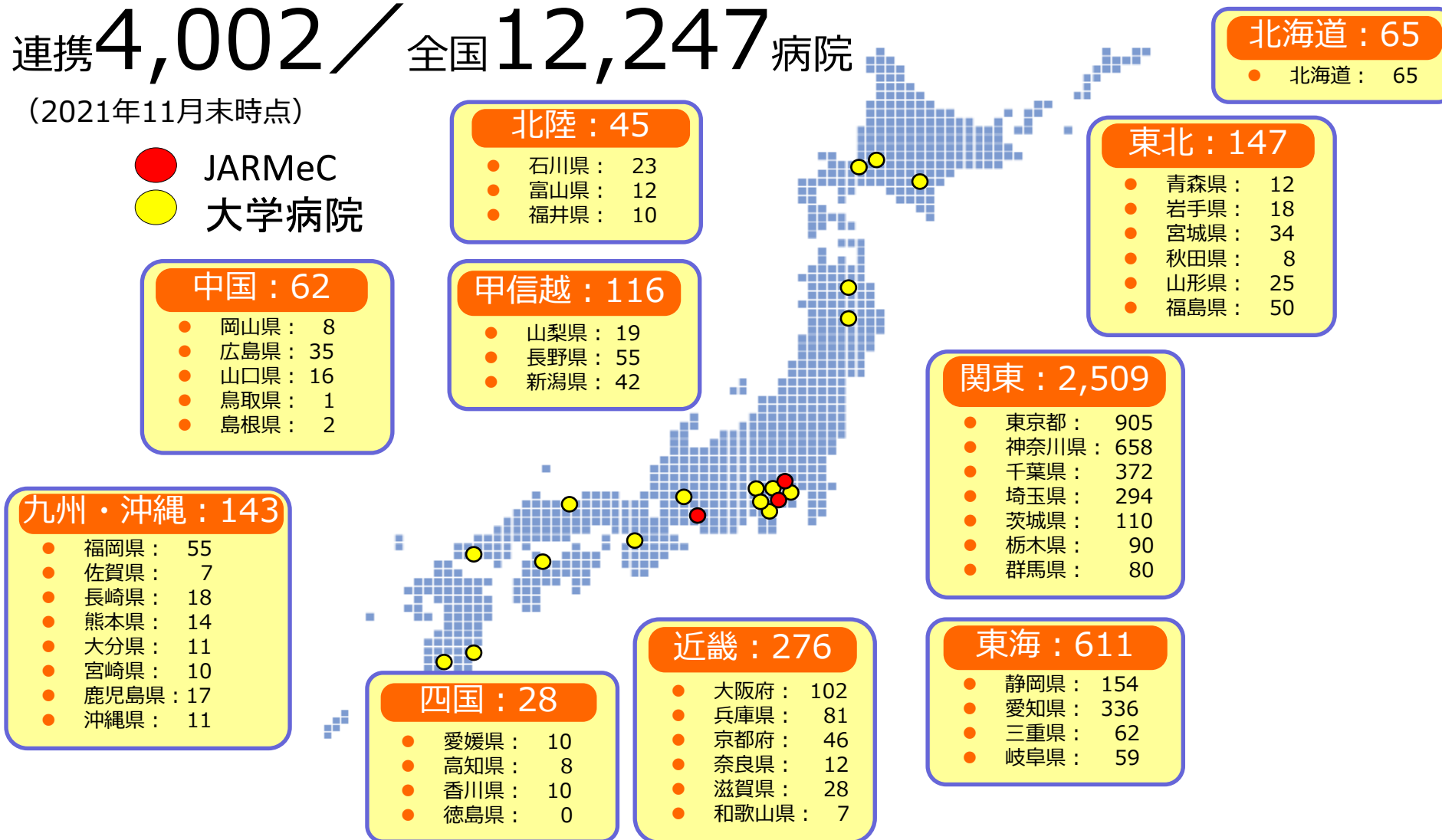
等のサービスを実施。

連携病院数

連携 **4,002** / 全国 **12,247** 病院

(2021年11月末時点)

- JARMeC
- 大学病院



3. 業績・財務概要



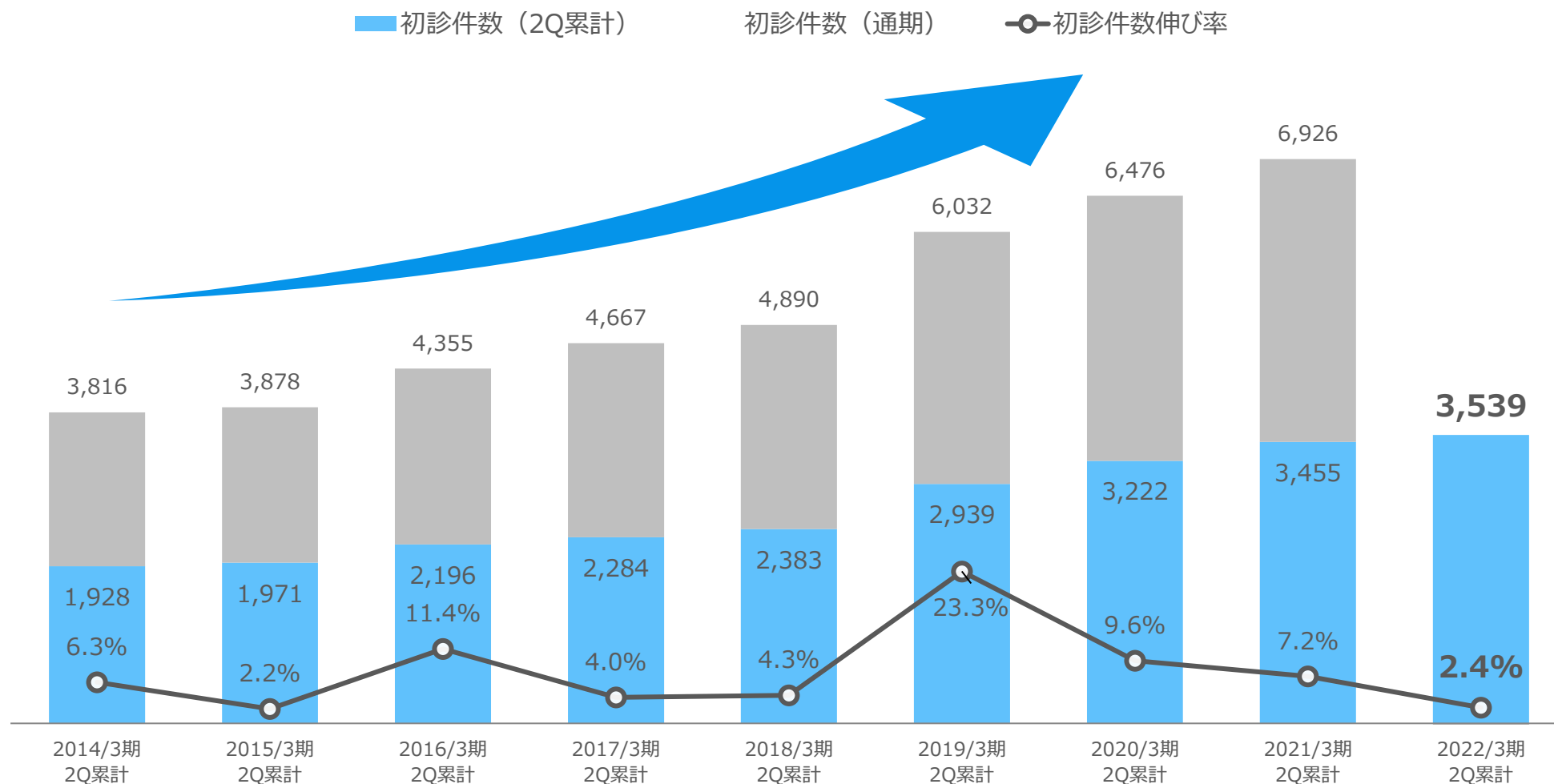
2022年3月期第2四半期累計期間 決算概要

- 初診件数及び総診療件数の増加が続き、第2四半期累計期間における過去最高売上を更新
- 事業拡大に伴う人件費の増加等も相まって、営業利益以下は減益となる

(百万円)	2021/3期			2022/3期				
	2Q累計実績	進捗率	通期実績	2Q累計実績	前年同期比		進捗率	通期計画
売上高	1,410	49.5%	2,847	1,437	+26	+1.9%	49.1%	2,930
営業利益	196	48.5%	405	182	▲14	▲7.2%	44.5%	410
経常利益	196	47.8%	410	186	▲9	▲5.0%	44.4%	420
親会社株式に帰属する 四半期純利益	134	47.3%	285	127	▲7	▲5.5%	43.9%	290
1株当たり 四半期純利益	57.3円	—	120.7円	53.4円	▲3.8円	▲6.7%	—	121.7円
初診件数	3,455件	49.9%	6,926件	3,539件	+84件	+2.4%	49.6%	7,140件

事業KPI：初診件数（紹介数）の推移

- 伸び率は鈍化したものの、初診件数は増加を維持。第2四半期累計期間においては過去最多件数を更新

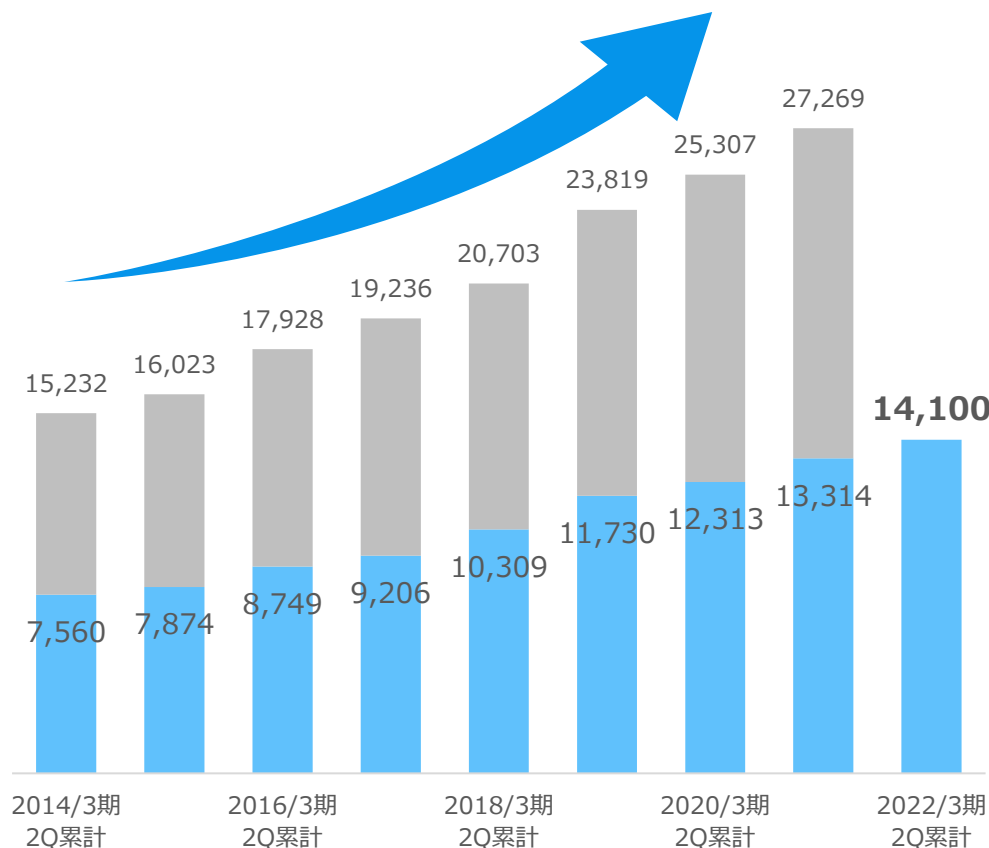


事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数は増加基調を維持し、第2四半期累計期間において過去最多件数を更新

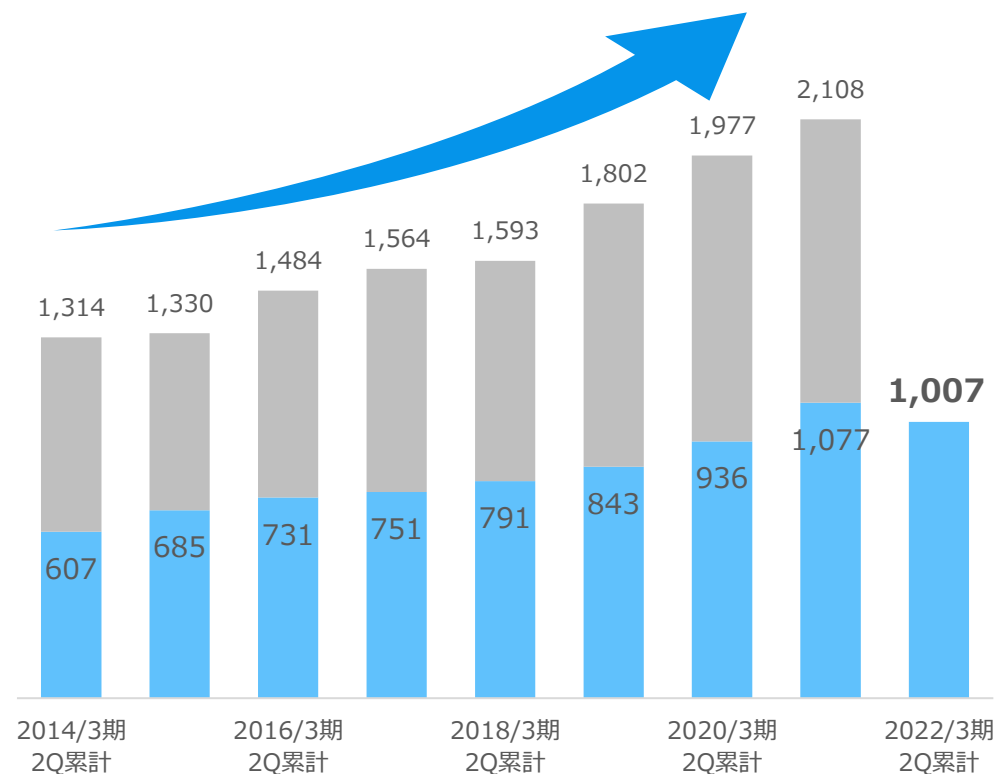
総診療件数の推移

■ 総診療件数（2Q累計） ■ 総診療件数（通期）



手術件数の推移

■ 手術件数（2Q累計） ■ 手術件数（通期）

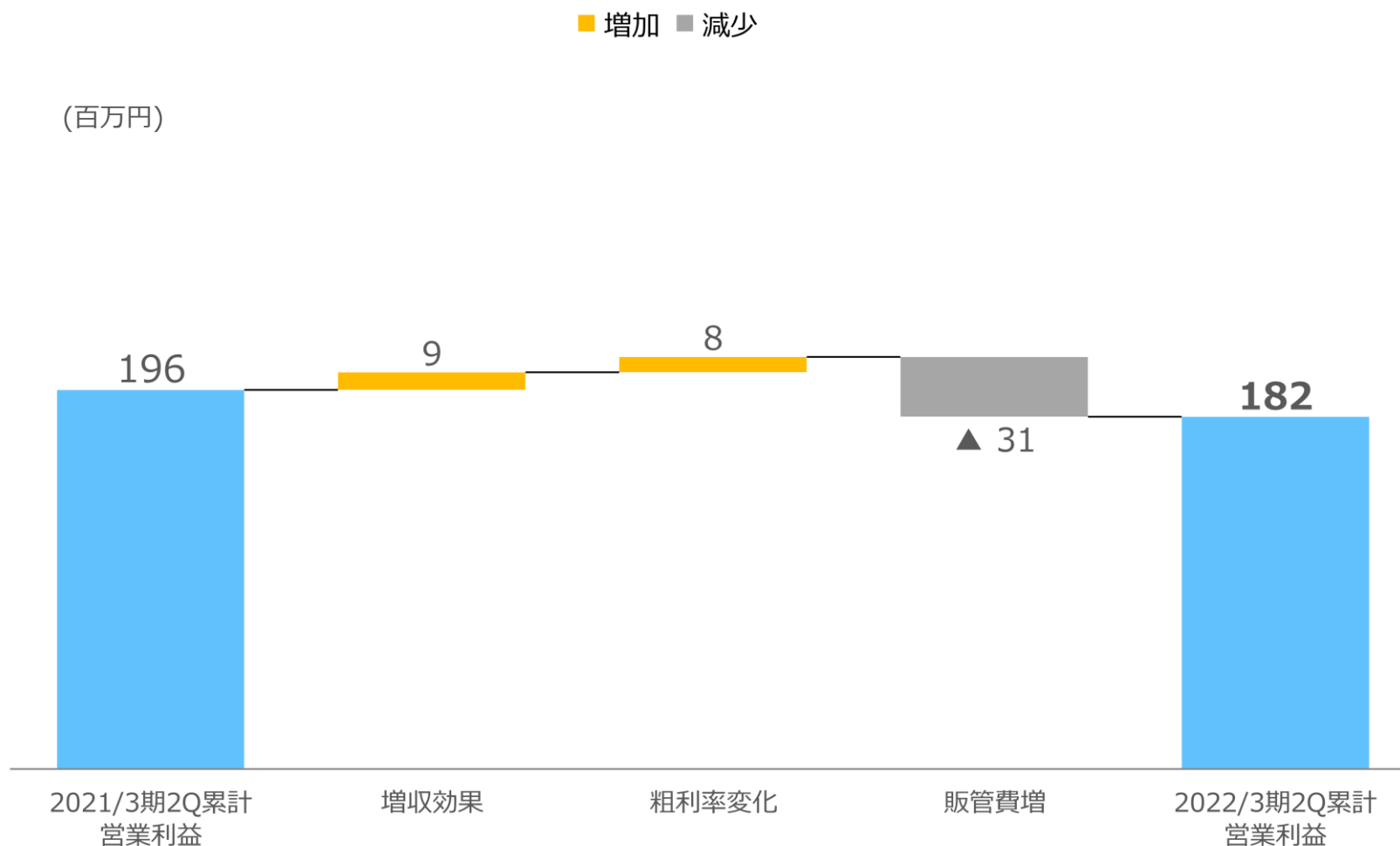


注：総診療件数は初診と再診の合計数

営業利益増減要因

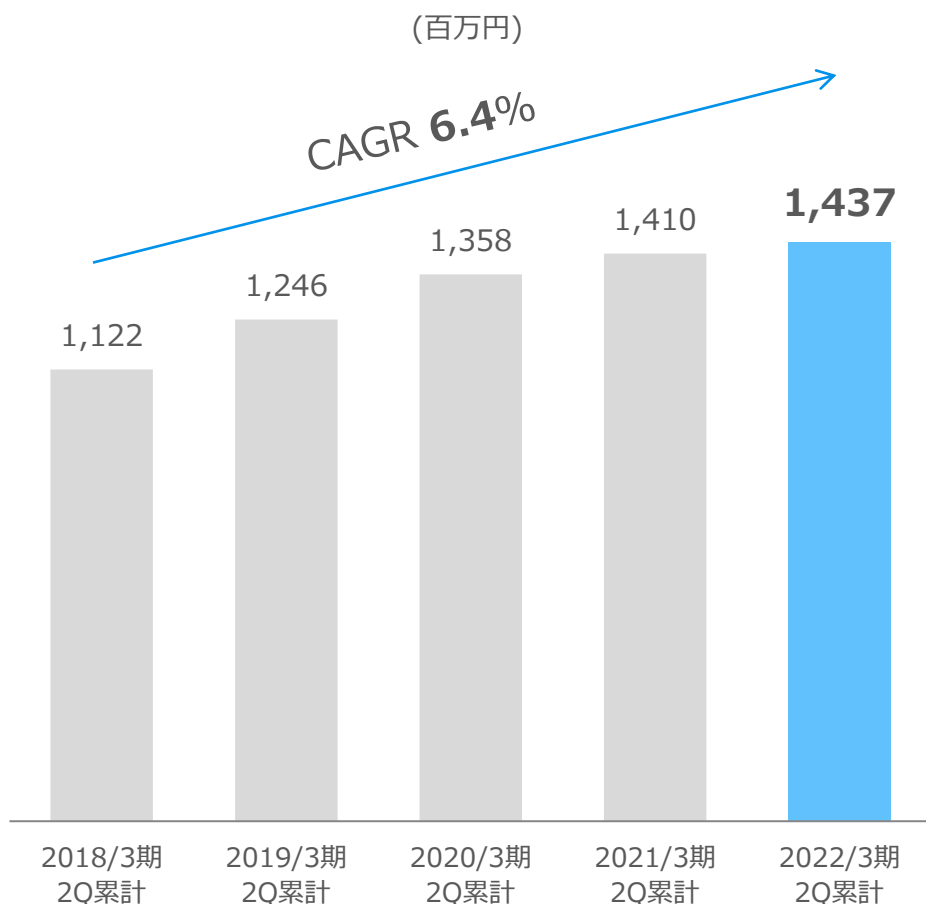
- 大阪病院*等、今後の事業拡大を見据えた従業員の増加及び待遇改善に伴う人件費の増加等により、前年同期比増収し粗利率は改善するも、販管費の増加分を吸収しきれず営業減益

*2023年3月に開院予定の新規診療施設

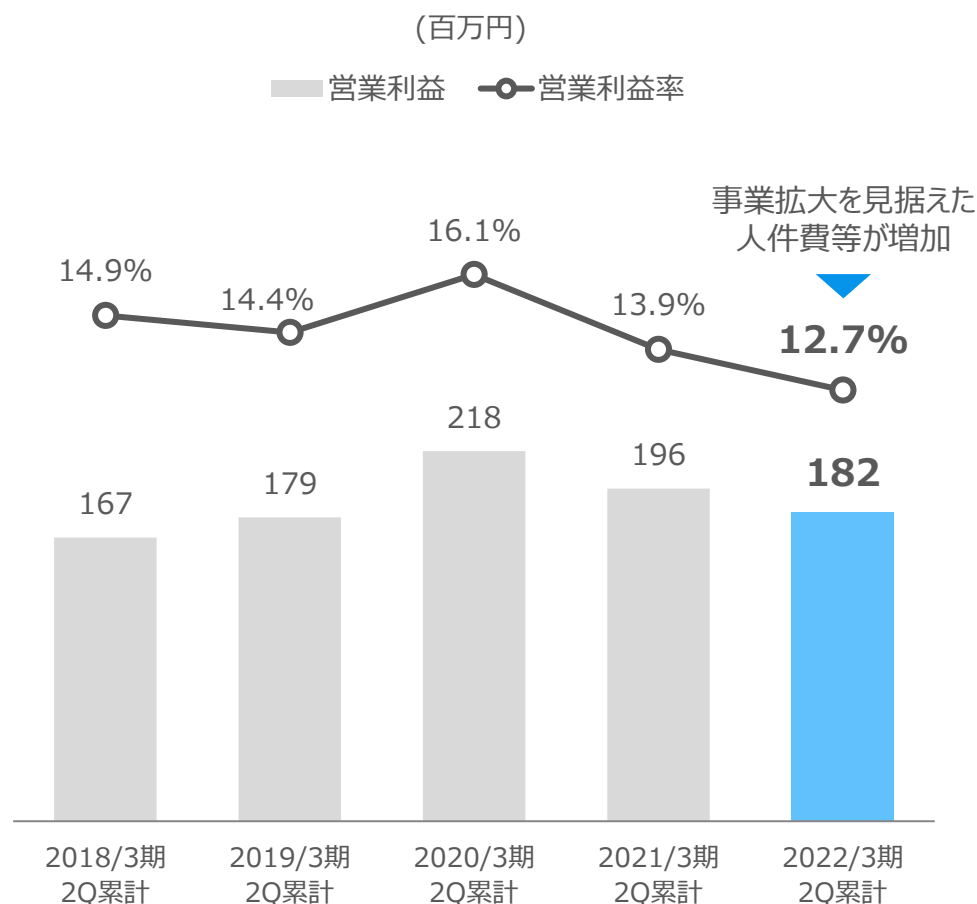


- 売上高は、前年同期比1.9%増の14億37百万円となり、第2四半期累計期間において過去最高売上を更新
- 営業利益は、同7.2%減の1億82百万円で着地

売上高の状況



営業利益・営業利益率の状況



バランスシート状況

- 有利子負債が減少し、有利子負債依存度は49.7%に低下。負債合計も3億33百万円減少
- 株主資本は1億28百万円増加し、自己資本比率は43.7%へ上昇

(百万円)	2021/3期	2022/3期2Q	3月末比
流動資産	1,457	1,324	▲133
現預金	1,214	1,083	▲130
売掛金	148	140	▲8
固定資産	4,386	4,314	▲71
有形固定資産	4,198	4,121	▲77
総資産	5,844	5,639	▲204
負債	3,507	3,174	▲333
有利子負債	3,074	2,805	▲269
純資産（株主資本）	2,336	2,464	+128
負債純資産合計	5,844	5,639	▲204

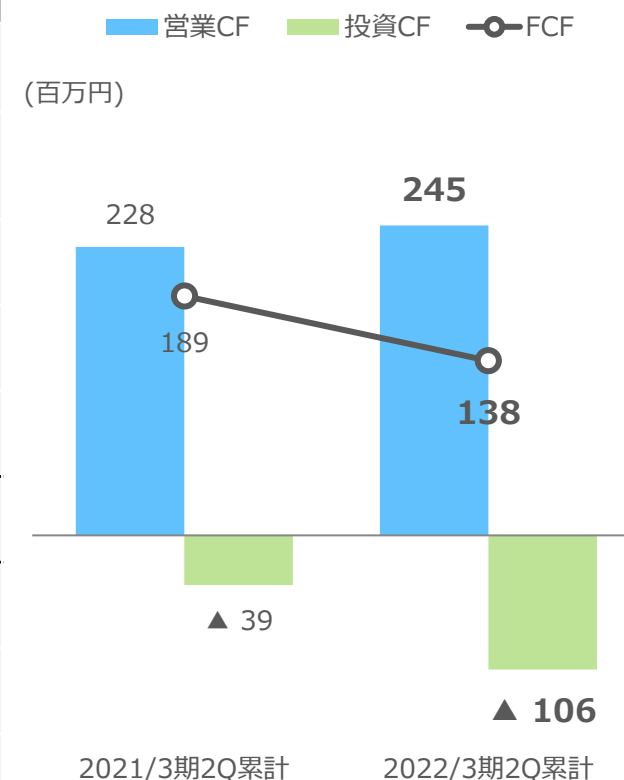
有利子負債依存度は
52.6%から49.7%に低下

自己資本比率は
40.0%から43.7%へ上昇

キャッシュフローの状況

- 四半期純利益は減少したものの、営業CFは16百万円増加しプラスを維持
- 医療機器更新等の設備投資増加により、投資CFは▲1億6百万円となるも、FCFはプラスを維持

(百万円)	2021/3期 2Q累計	2022/3期 2Q累計	前年同期比
営業CF	228	245	+16
税金等調整前 四半期純利益	196	185	▲11
減価償却費	118	112	▲6
投資CF	▲39	▲106	▲67
有形固定資産取得	▲35	▲88	▲52
FCF*	189	138	▲50
財務CF	▲306	▲269	+36
有利子負債の増減	▲162	▲269	▲106
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,031	983	▲48



*FCF (フリー・キャッシュフロー) = 営業CF + 投資CF

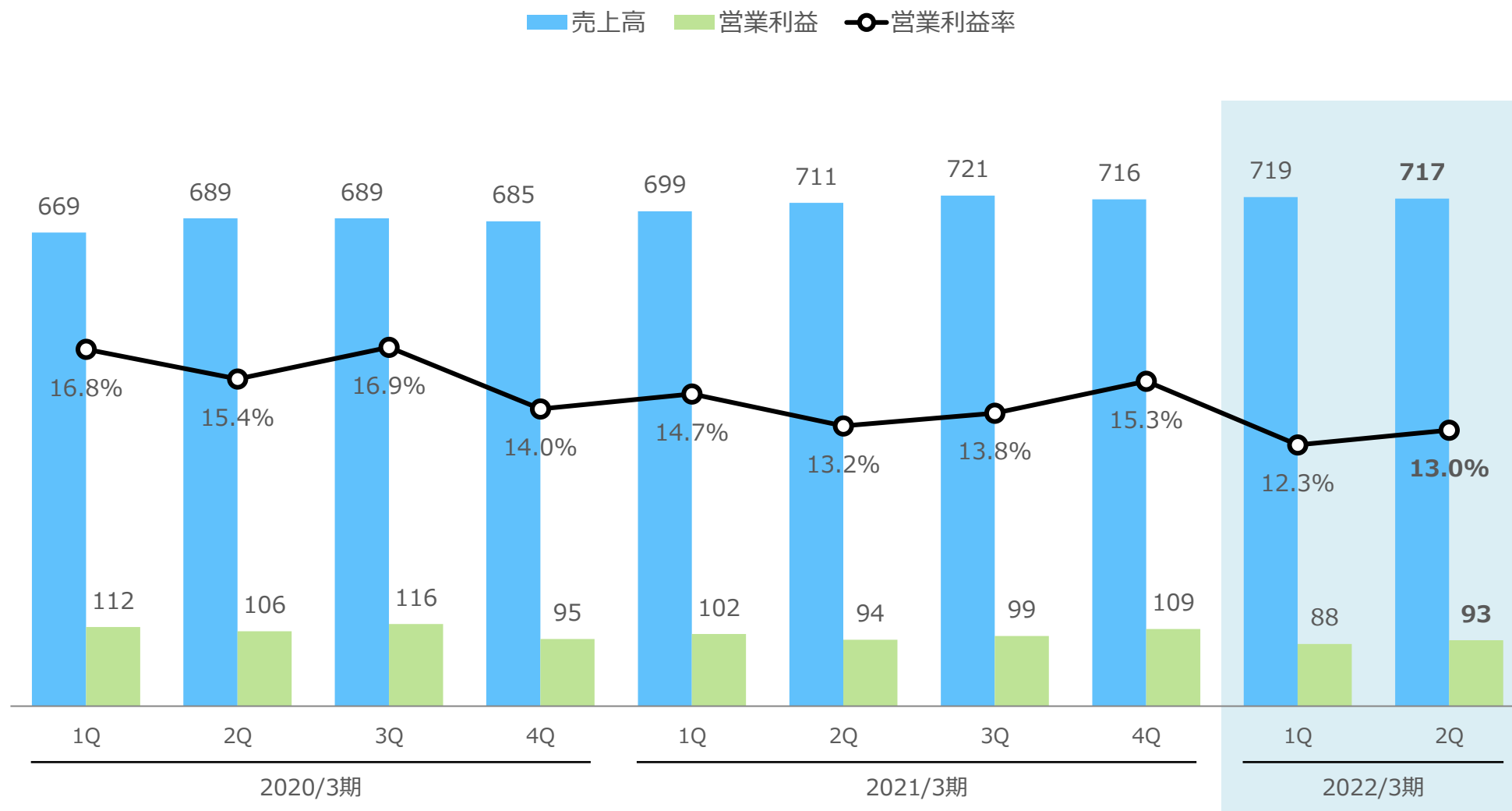
2022年3月期の見通し

- 通期計画については、当初予想からの変更はなし
- 引続き一次診療施設とのコミュニケーション強化を継続し、初診件数含め診療件数の増加を図る

(百万円)	2021/3期		2022/3期				
	実績	構成比	上期実績	通期計画	構成比	前期比	
売上高	2,847	100.0%	1,437	2,930	100.0%	+82	+2.9%
営業利益	405	14.2%	182	410	14.0%	+4	+1.1%
経常利益	410	14.4%	186	420	14.3%	+9	+2.2%
親会社株主帰属 当期純利益	285	10.0%	127	290	9.9%	+4	+1.7%
初診件数	6,926件	—	3,539件	7,140件	—	+214件	+3.1%

四半期決算 業績推移

- 当第2四半期累計期間においては前年同期比増収減益であるも、四半期比では営業利益・営業利益率は改善
- 下期以降も想定通りの進捗を見込む

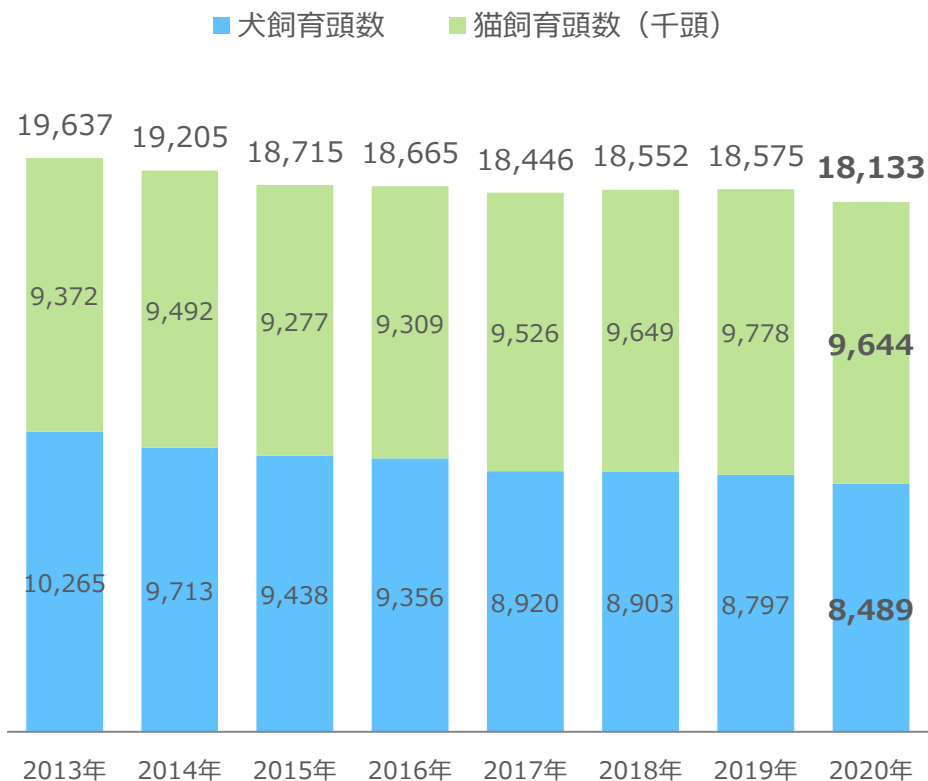


4. 市場環境



- 犬猫飼育頭数は減少傾向にあるが、空前の猫ブームにより2018年～2019年にかけては増加に転じるも、犬の飼育頭数は減少が続き、全体では再び減少傾向
- 一方で、新規犬猫飼育頭数はここ2年間で増加傾向。2020年には新型コロナの巣籠もりの影響等により、前年比15.2%増加し過去5年間で最多

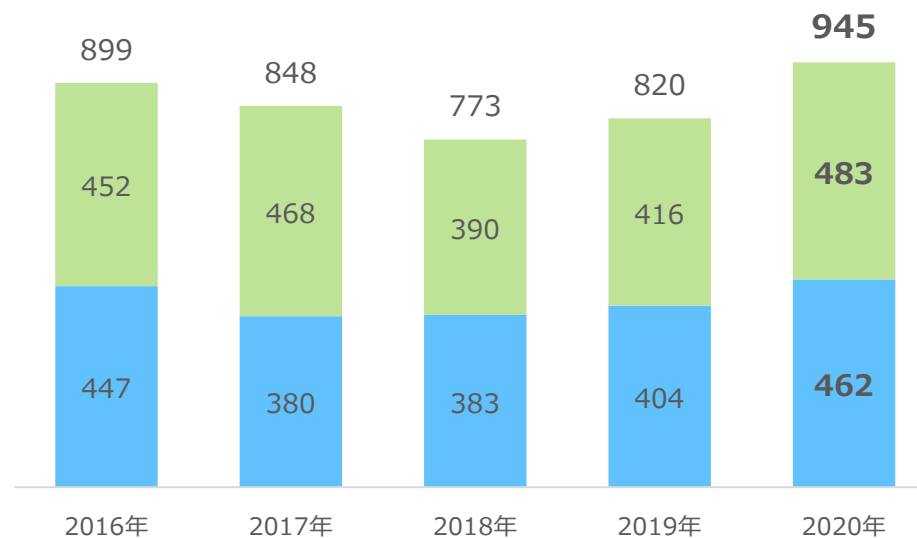
犬猫飼育頭数



新規犬猫飼育頭数*

*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数 (千頭)



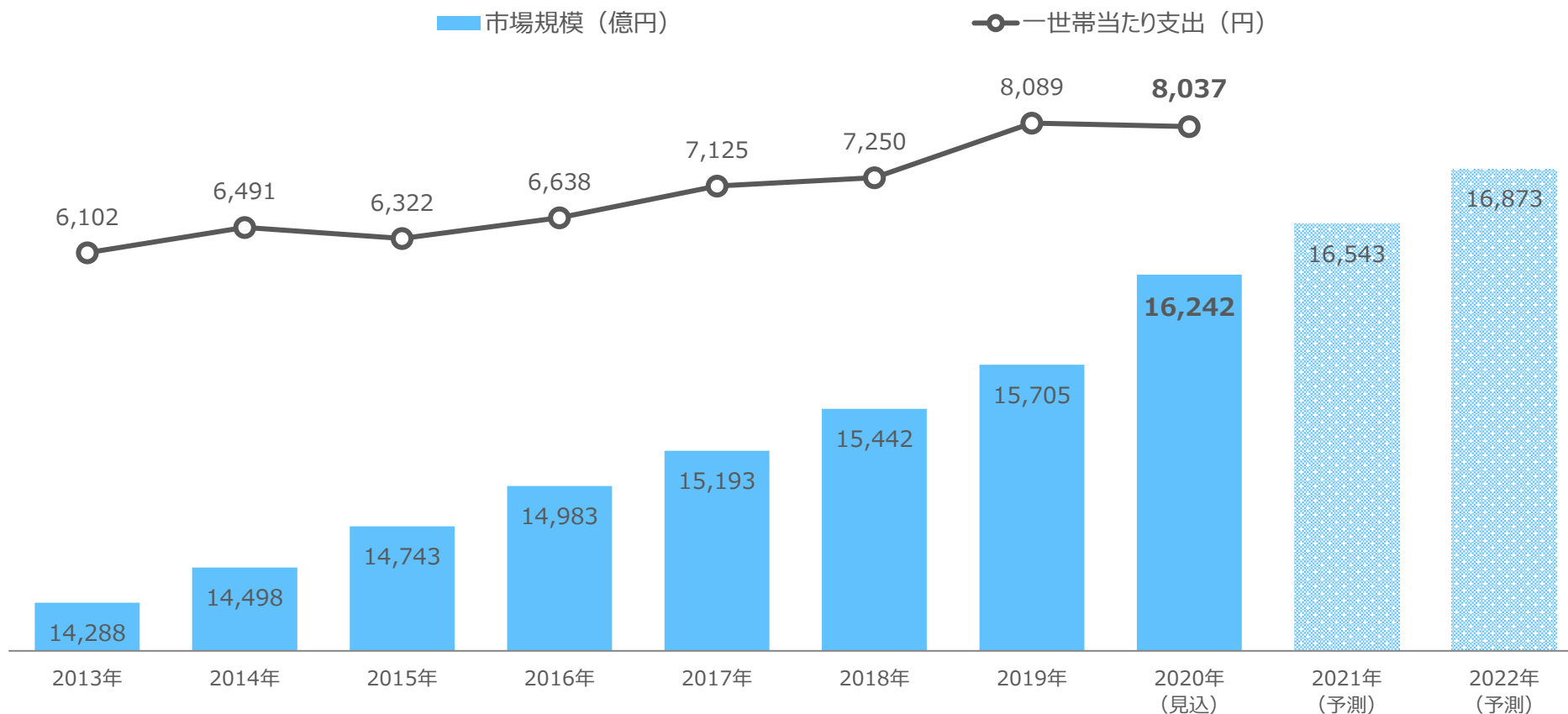
出所：ペットフード協会「令和2年 全国犬猫飼育実態調査」

ペット関連総市場規模

- ペットの家族化により、犬猫の高齢化に伴い疾病が多様化する中で飼い主の動物医療に対する多様化・高度化要請は増加し、世帯当たりの動物病院支出額は増加傾向
- ペット関連総市場規模は年々拡大

ペット関連総市場規模*と一世帯当たり動物病院支出額

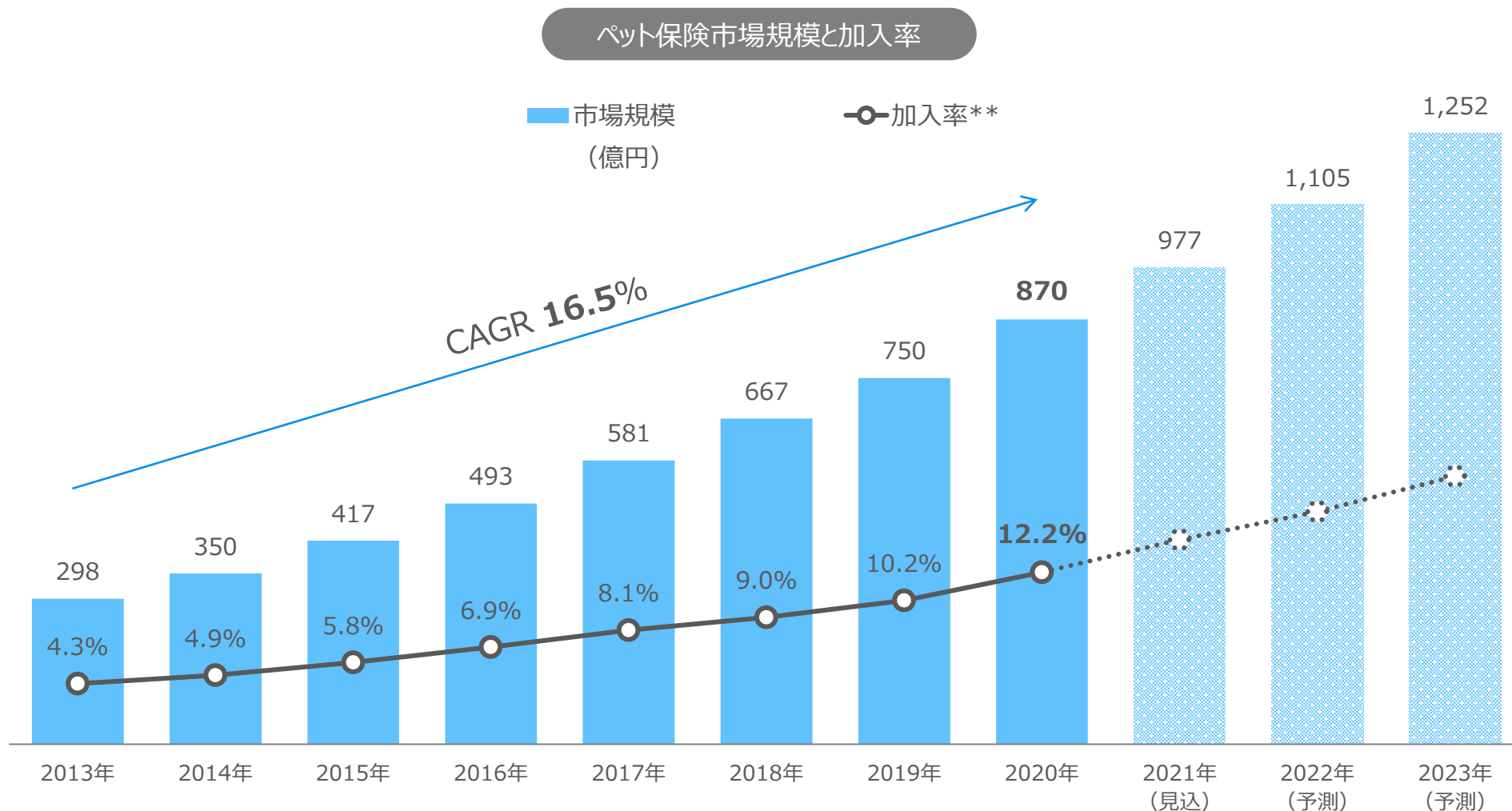
*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体



出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」、総務省「家計調査」

ペット保険の成長性


- ペット保険の市場規模は年平均16.5%拡大し、今後も拡大傾向が続く見通し
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい



*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率
**犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

出所：富士経済「2021ペット関連市場マーケティング総覧」
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2021年版」

当社の特徴と競合との比較

病院の区分	 <p>JARMeC Japan Animal Referral Medical Center</p>	獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	11	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

JARMeCが提供する高品質なサービス

高度医療機器

獣医科大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える

柔軟な受入対応

年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評

チームによる診療体制

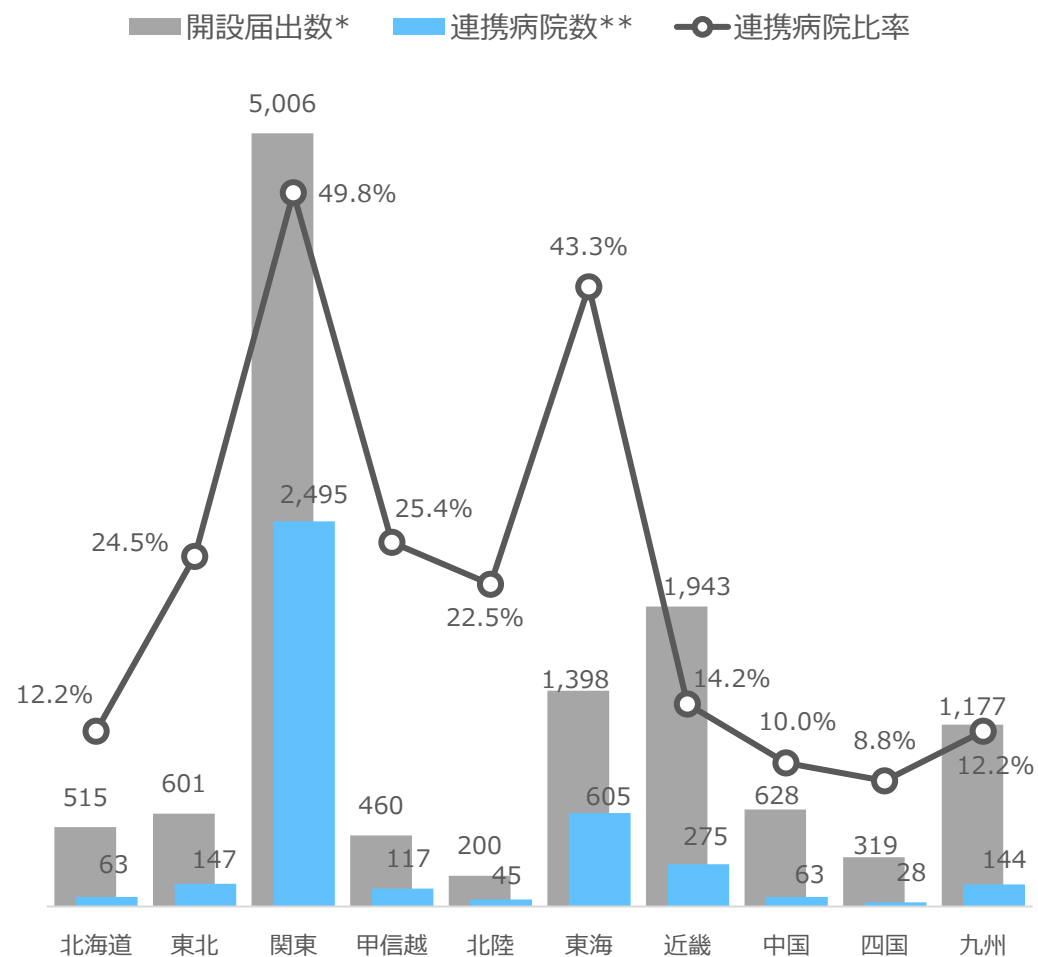
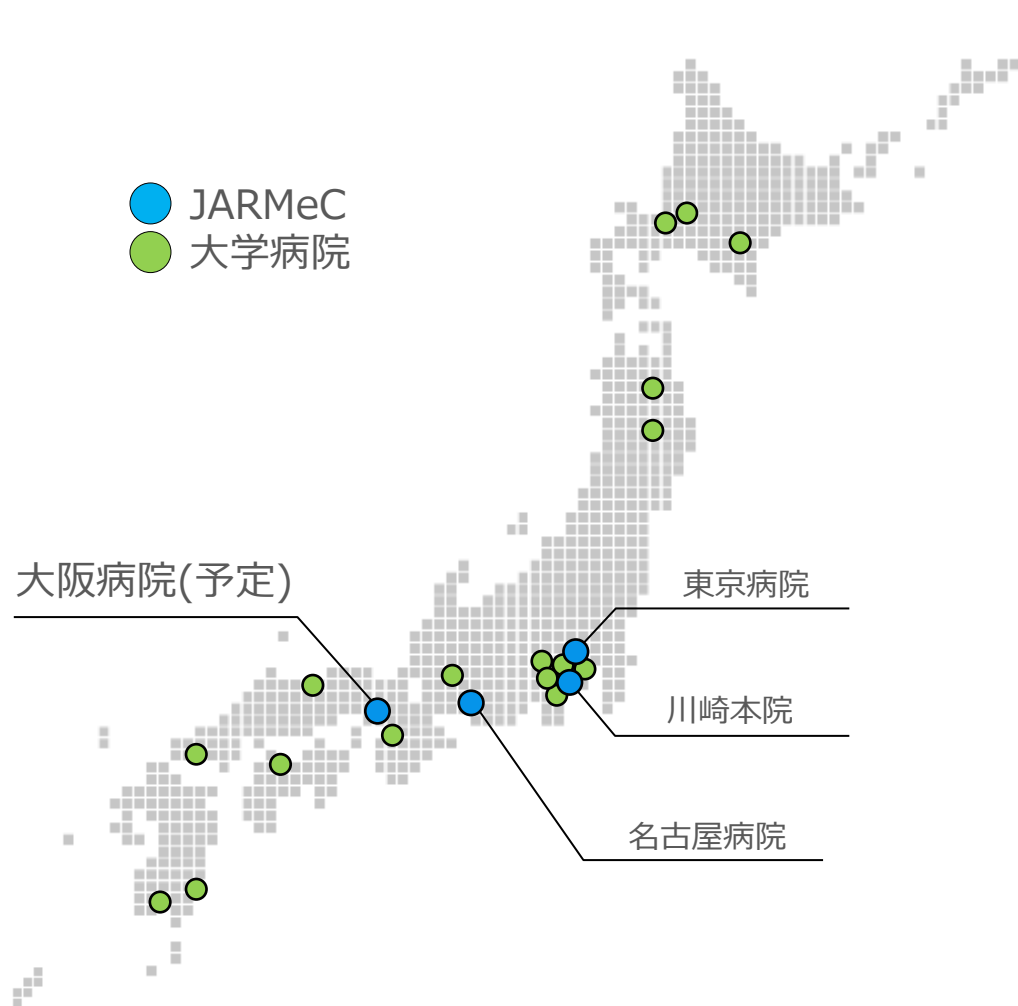
専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。
必要に応じて複数の診療科が協力して対応

5. 成長戦略



拠点の拡大

- 大阪病院の開院を準備中 ⇒2023年3月に開院予定
- 全国主要都市に施設の展開を積極的に推進

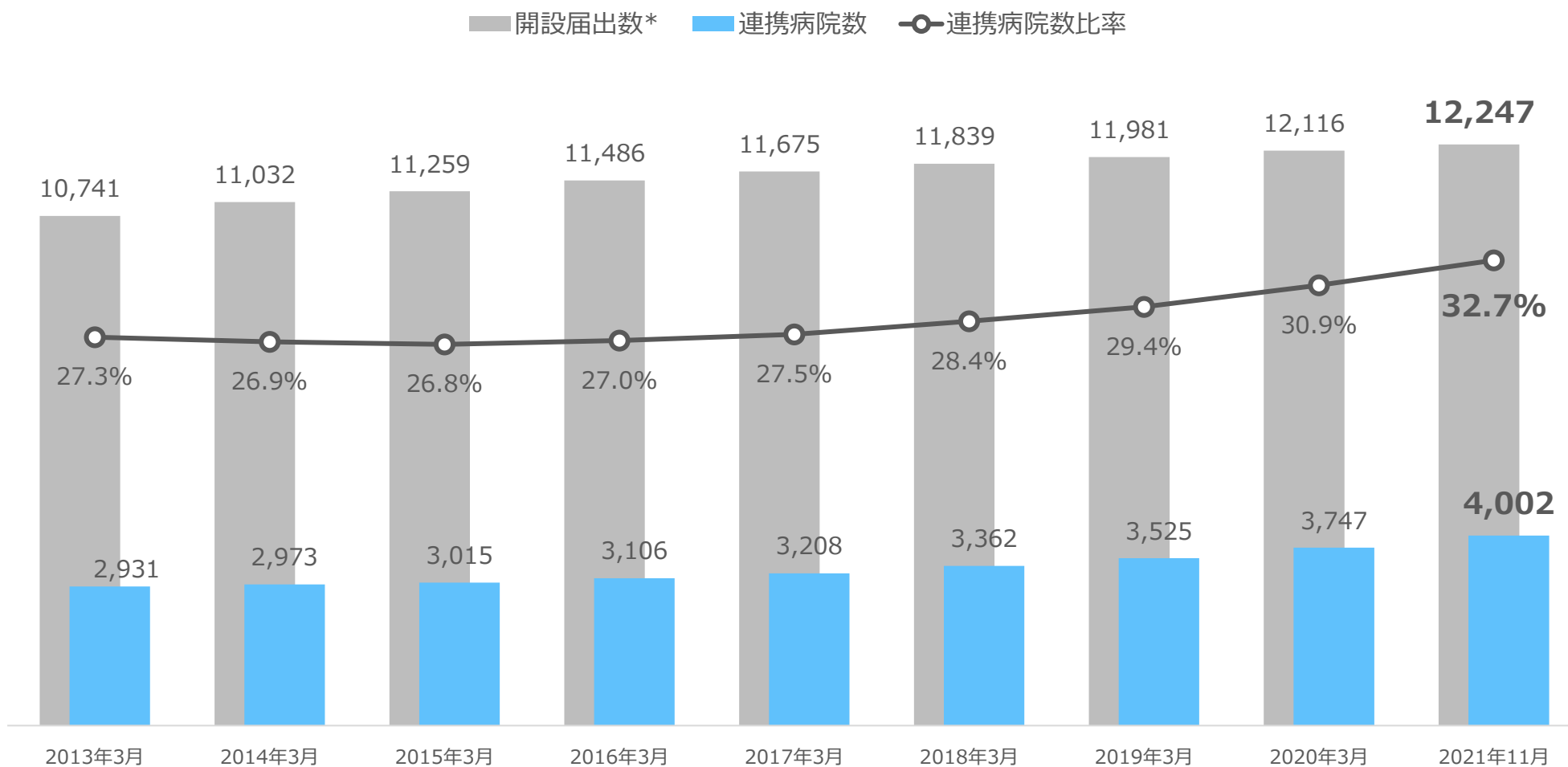


*開設届出数は農林水産省（2020年12月末時点の小動物診療施設の件数）

**連携病院数は2021年9月末時点の件数

連携病院数の拡大

- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加
- 2021年11月末時点で全国4,002施設と連携し、全動物病院に対する連携病院数比率は32.7%を達成



*開設届出数は農林水産省（2020年12月末時点の小動物診療施設の件数）

- ◆ M&Aも活用した事業領域の拡大
 - 動物医療に関連した事業の買収を推進
 - ➔ 医療機器、ペットフード、保険、医薬品 等
- ◆ 診療外領域で患者動物・飼い主・一次診療施設をサポートし、利便性を高める新規事業へ挑戦
 - 活動量計「プラスサイクル」を使用した取り組み
 - ➔ 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」
 - ➔ 動物病院経由での拡販を目指し、普及活動中
 - ➔ 複数の企業との協業交渉中



動物医療業界における総合的企業として成長

テルコム(株)の子会社化による事業領域の拡大

- テルコム(株)*の全株式を取得し子会社化検討のため、基本合意書の締結を決議
- 同社が構築してきた「全国規模の飼い主、一次診療施設との接点」と、当社グループの「二次診療サービス」が融合し、中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスが提供できることを企図
- 2022年3月下旬に株式譲渡実行予定

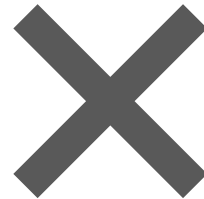
*テルコム株式会社：動物の在宅医療に必要な「酸素ハウス」（酸素濃縮器、ケージ、酸素濃度計等のセット）の販売・製造・貸与を全国規模で行う医療機器メーカー

酸素ハウス。



酸素ハウスを必要とするすべての方に、
もっと安心を届けられるように。

全国規模の
飼い主、一次病院との接点



JARMeC
Japan Animal Referral Medical Center
日本動物高度医療センター

動物にも人間と同じような
高度な医療を受けさせたい

二次診療サービス

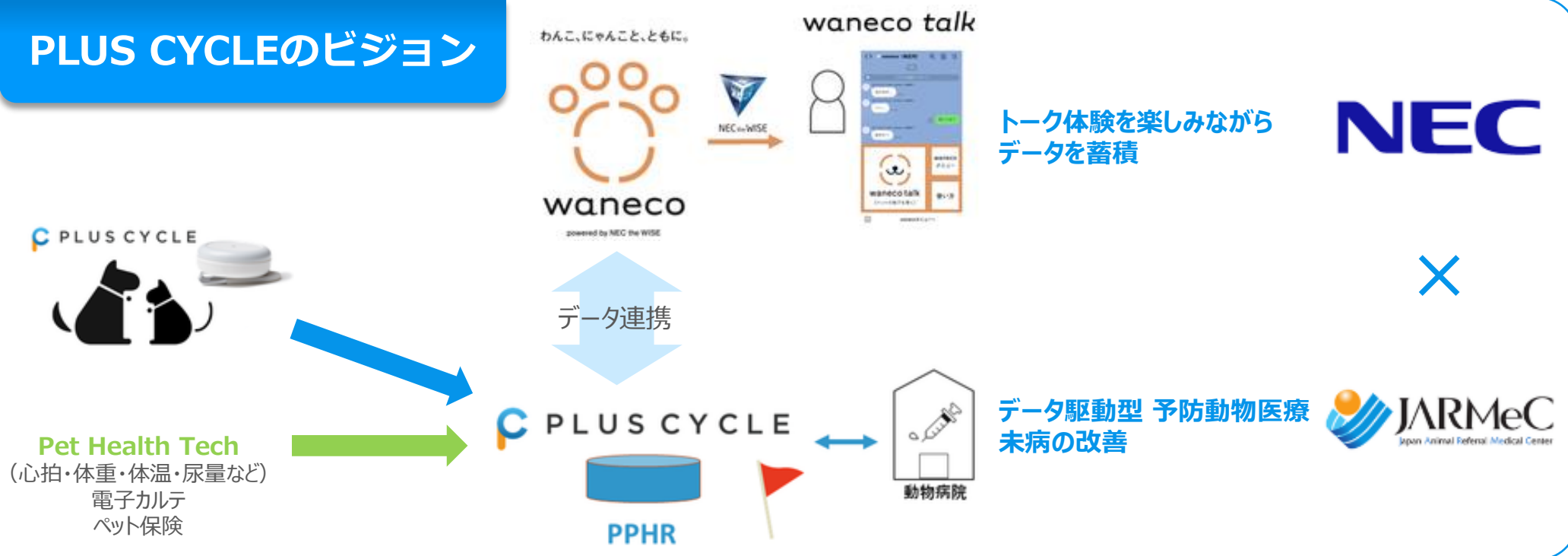
両社の経営姿勢、経営方針が合致し、
中長期的により多くの飼い主に高品質な動物医療サービスを提供

プラスサイクルを使用した他社との連携

- 活動量計「プラスサイクル」を利用した日本電気(株)の体験サービス「waneco talk」の予約販売が9月28日に(株)マクアケの運営サービス「Makuake」において開始
- 将来的には、様々なPet Health Techから得られる生態データや電子カルテ/ペット保険から得られる診療/疾患データを集積するPPHR*を構築

*Pet Personal Health Record
PHR：病院や薬局ごとに保存・保管している個人の医療データ

PLUS CYCLEのビジョン



各犬猫のデータに基づいたデータ駆動型 予防動物医療の実現を目指す

- 拠点拡大の一環として、診療を行う獣医師や動物看護師などの増員を図る計画
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を実施

人材確保

- ◆ 優秀な人材の確保
 - 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
 - 採用活動を積極的に実施
- ◆ 従業員の育成
 - 獣医師、動物看護師へOJTの実施
 - 外部セミナーの活用

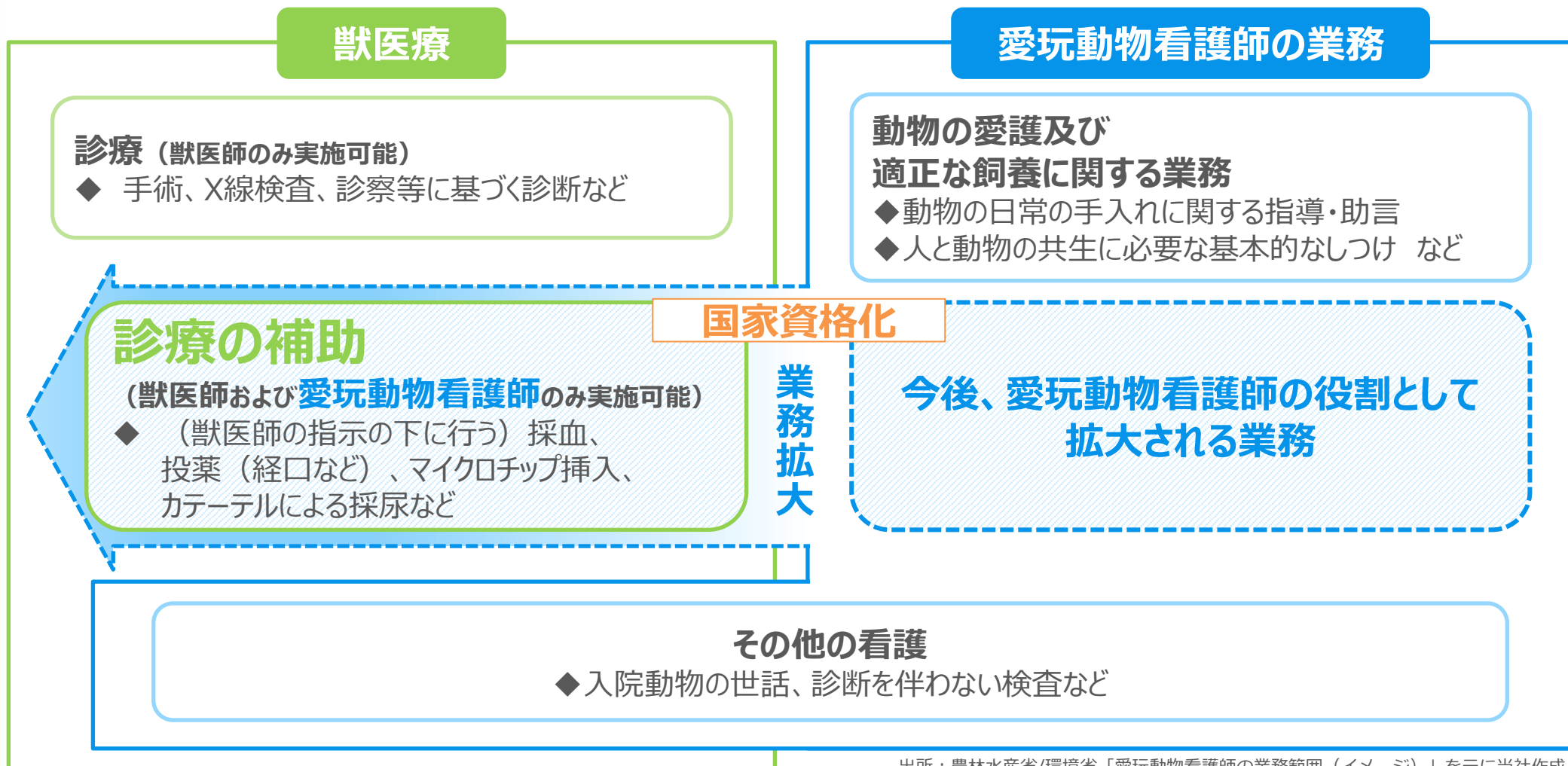
役割の拡大

- ◆ 動物看護師の国家資格化（愛玩動物看護師）
 - 動物看護師の国家資格化による役割の拡大、獣医師の負担軽減
 - ➔ 業務の効率化・生産性の向上

愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される
- 第1回愛玩動物看護師国家試験は、2023年2月末～3月頃に実施予定

*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他政令で定める動物（オウム科全種、カエデチョウ科全種、アトリ科全種）。



出所：農林水産省/環境省「愛玩動物看護師の業務範囲（イメージ）」を元に当社作成

6. リスク情報



認識するリスク	リスク対応策、顕在化する可能性等
<p>事業環境の変化（飼育動物の減少）</p> <p>飼育動物の頭数は、人口動態、景気動向等の影響を受けると考えられ、一部の調査では近年は減少傾向にあります。飼育頭数が急激に減少した場合には当社グループの業績に影響を与える可能性があります。</p>	<p>顕在化する可能性：中 影響度：高 時期：中長期</p> <p>動物の平均寿命は延びてきており、高齢化による疾病が多様化していること、ペット保険の加入率が増加傾向にあることから、当社グループが手掛ける「動物の高度医療」に対するニーズは高まっていると認識しております。このようなニーズに応えるべく、拠点の拡大、人材の育成、業務範囲の拡大等を図ってまいります。</p>
<p>競合の激化</p> <p>当社グループの属する動物の二次診療施設の増加により競争が激化し、診療数の減少が進んだ場合等には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。</p>	<p>顕在化する可能性：低 影響度：中 時期：中長期</p> <p>動物の二次診療施設は、人的資源および多額の資金を必要とすることから比較的参入障壁は高いと思われます。当社グループは多くの専門診療科を有する総合診療施設を志向しており、複数の専門診療科の連携によって患者動物に最適な診療サービスを提供することで、他の二次診療施設との差別化を図ってまいります。</p>
<p>診療サービスの過誤</p> <p>当社グループは、提供する動物医療サービスに過誤が生じ、発生した損失に対する責任を追及されるリスクがあります。さらにサービスに過誤が生じたことにより社会的評価が低下し、当社グループのサービスに対するニーズが低下するリスクがあります。このような場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。</p>	<p>顕在化する可能性：低 影響度：中 時期：中長期</p> <p>当社グループは、提供する動物医療サービスの品質管理に細心の注意を払っております。今後もサービスに携わる人材の教育に努めてまいります。</p>

（注）認識するリスクについて、有価証券届出書等の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクにつきましては、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。

認識するリスク	リスク対応策、顕在化する可能性等
<p>人材の確保と育成</p> <p>当社グループにおいて専門性の高い獣医師をはじめとする優秀な人材の確保、育成及び定着は、今後の業容拡大のための重要課題であります。必要とする人材を採用できない場合、また採用、育成した人材が当社の事業に寄与しなかった場合、あるいは社外に流出した場合には、当社グループの事業展開及び業績に影響を与える可能性があります。</p>	<p>顕在化する可能性：中 影響度：中 時期：中長期</p> <p>当社グループは、給与・賞与支給水準の向上、福利厚生の充実などの待遇改善に努めてまいります。また、入社する職員に対する研修や、リーダー層となる中堅職員への幹部教育を通じ、将来を担う優秀な人材の育成に努め、社内研修・カンファレンス、症例報告会、学会発表の指導等を通じて役職員間のコミュニケーションを図ることで、定着率の向上を図ってまいります。</p>
<p>新型コロナウイルス感染症の拡大</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大が一般的な予想以上に長期化する場合には、以下のリスクが想定され、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。</p> <p>①当社グループ役職員が感染するリスク 消毒などに必要な期間や、病院の運営に必要な人員が確保できなくなる場合等、病院の休業を余儀なくされるリスクがあります。</p> <p>②消費動向に関するリスク 感染拡大の長期化に伴い、経済活動が大きく低迷した場合、個人の消費マインドの冷え込み等により、患者数が低下するリスクがあります。</p>	<p>顕在化する可能性：低 影響度：中 時期：中長期</p> <p>当社グループは、社長を対策本部長とする「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、全社的な対応方針の決定や具体的な施策の実行により、職員とその家族、来院する飼い主の安全確保、感染拡大防止に最優先に取り組んでおります。その結果、病院の運営に支障が生じたことはなく、感染拡大による業績への影響は、比較的軽微なものでありました。引き続き感染拡大防止に取り組んでまいります。</p>

(注) 認識するリスクについて、有価証券届出書等の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクにつきましては、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。

- 本資料は、当社の事業内容及び事業戦略に関する情報の提供を目的とするものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘する目的としたものではありません。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。
- 従いまして、実際の業績が本資料に掲載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを予めご了承ください。なお、業績予想等に変更を与える事象が発生した際には、速やかに適時開示を行っていく方針です。
- 「事業計画及び成長可能性に関する事項」の更新は、今後、本決算発表後に開示を行う予定です。次回の更新は、2022年6月を予定しております。

＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター
管理部 企画課 IR担当
044-850-1320
e-mail : ir@jarmec.jp